

\*\*\*\*\*

## メ〜テレ制作のドキュメンタリー

「責任の所在～耐震偽装はなぜ見過ごされたか～」が、

「地方の時代」映像祭放送局部門に入賞しました。

\*\*\*\*\*

「地方の時代」映像祭は、地域の人たちの営みを記録した

ドキュメンタリーを表彰するもので、今年で29回目。

日本民間放送連盟、NHK、大阪府吹田市、関西大学が主催、

関西の民放五局が共催して行われています。

今年は76のエントリー作品の中から、入賞作品7作品が選ばれました。

この7作品と一般部門の入賞作品2作品、高校生部門の

入賞2作品、計11作品の中からグランプリ、特別賞、優秀賞、

奨励賞などが選ばれ、11月21日の表彰式で、発表されます。

入賞番組名：メ〜テレドキュメント「責任の所在～耐震偽装はなぜ見過ごされたか～」

初回放送日時：2009年5月29日(金) 午前9時57分～10時51分

### 番組内容

愛知県半田市のビジネスホテル、センターワンホテル半田の中川三郎社長は、

客室の稼働率を見つめて、深いため息をついています。

製造業関連の客が多いホテルが不況の波を被り、70%を超えていた稼働率が60%台に落ち込んだためです。

他ホテルに比べれば高い数字ですが、負債7億円を背負うホテルは、

稼働率76%を維持しなければ倒産の危機に瀕するのです。

負債は、耐震強度偽装事件で解体に追い込まれ再建費用として借り入れたもの。

「事件の責任の所在はどこにあるのか。」それが社長の口癖です。

なぜ、偽装は見逃されたのか。

姉齒元建築士による構造計算書を審査したのは愛知県です。

県は、「姉齒元建築士の偽造が巧妙で見抜くことは不可能だった」として、

責任を回避してきました。

しかし中川社長が調べたところ、一目瞭然でわかるほど簡単な偽造が

含まれていたのです。

耐震偽装を見逃した民間の検査確認機関が国交省の処分を受けた一方で、

自治体で担当者の処分を行ったところはないのです。

愛知県も、国交省からの通達を無視し非処分に終わりました。

中川社長は、2006年2月、愛知県の責任を問い損害賠償を求める裁判を

起こしました。

被害者が、自治体を訴えたのは全国で初めてでした。

裁判で証言にたった愛知県の元建築主事は、構造計算書を精査せずに、センターワンホテル半田に確認済み証を出していたとみられます。

県は、旧建築基準法のもとでは、構造計算書や図面を見比べるなどのチェックをする法的義務は無く、

偽装された計算書を提出した中川社長に逆に非があると主張します。

中川社長は、「きちんと検査をせずに、確認済みというならば、なんのための制度なのか」と怒りに震えます。

事件発覚から1196日、提訴から3年余りの2月24日、

耐震偽装事件で行政に対して初めての司法の見解が示されました。

構造計算書や図面を見比べずに、建築確認を行っていたのは、

公務員としての義務に背くとして、愛知県の責任を認める内容だったのです。

中川社長が喜びをかみしめる一方、愛知県は控訴しました。

番組は関係資料と裁判記録、そして人間ドラマを織り交ぜながら、建築確認行政の不作為(無責任)の構図を描きます。

#### 【スタッフ】

**P:早川健一**

**D:安藤則子**

**カメラ:山田英寿**

**音声:矢野健一郎**

**ナレーター:深津真弓(メ〜テレアナウンサー)**

**編集:寺田啓二**

<問い合わせ先> メ〜テレ(名古屋テレビ放送)  
名古屋市中区橋2-10-1  
**【宣伝部】** TEL:052-322-7174